

（別紙）

意見公募の実施結果について

1 意見公募案件

「文化的施設整備事業」に係る意見公募について

2 意見の募集期間

令和3年6月14日（月）から令和3年7月30日（金）まで

3 意見の提出者数及び意見数

15人（46件）

※町において回答をしやすいとするため、丸付き数字及び括弧付き数字を用いてご意見を区切っています。
 ※意見数につきましては、この丸付き数字及び括弧付き数字の個数を数えたものとなります。

4 意見に対する町の考え方

下表のとおりです。なお、文章中の共通の用語については、以下のとおり記載しています。

- ・ 四万十町文化的施設基本構想 → 基本構想
- ・ 四万十町文化的施設基本計画 → 基本計画
- ・ 四万十町文化的施設基本設計 → 基本設計
- ・ 四万十町文化的施設サービス計画（仮称） → サービス計画

受付No.	意見（原文のとおり）	意見に対する町の考え方
1	<p>①県内、県外において文化施設をいろいろと見てきましたが、新設・既設を問わず、専門職員の配置により、内容の充実度が大きく変わるように感じます。特に新設の場合、展示内容や、展示室のレイアウトの設計段階から専門の職員（図書館司書や、学芸員）の意見を取り入れることで、それぞれの市町村の特色を上手く表現できている館が多いように感じます。現在、専門職員の採用は人材の確保も大変ですが、開館時からの採用ではなく、できるだけ早い段階で、専門職員を採用し、意見を出しながら計画を進めると良いと考えます。「構想」や「設計」も重要ですが、開館後の運営を知識を持つ専門家が行うことを想定し、準備しておく必要があると思います。</p>	<p>①ご意見のとおり、文化的施設では人材の確保が重要な課題であると考えており、「基本計画」でも職員の役割について明記しています。特に専門職員（司書・学芸員）の確保については、文化的施設の核となる「図書館」「美術館」「展示」の3つの機能に大きく関わってきます。しかしながら、学芸員につきましてはその専門分野が多岐にわたることから、必要となる人員の見極めが難しいところです。このため、当面の間につきましては、町外の施設で勤務されている学芸員の方や有識者の方などのご意見もお伺いしながら事業を推進できればと考えています。専門職員（司書・学芸員）の配置につきましては、できる限り早い段階で検討させていただきます。なお、ご意見と同様の考えから、本事業を所管する企画課文化的施設整備推進室では、岡山県津山市立図書館の元館長（司書の</p>

受付No.	意見（原文のとおり）	意見に対する町の考え方
2	<p>①キッズスペースの充実した図書館に期待しています。現在の四万十町では雨の休日に小さい子供と遊べる場所が皆無のためとても困っています。ただ本を並べてあるだけでなく、靴を脱いでくつろいでおもちゃで遊べたり、多少騒いでも大丈夫な環境であると安心して利用できます。有料でも利用したいです。設計図を見ると、そのように使うにはキッズスペースが少し小さいかなと思いますが、全体の大きさは十分に広い建物なので調整できるかと思っています。</p> <p>②子育て支援センターはいつもガラガラでしたが休日は休みで保育園に行ってる子は利用不可なのでもったいないです。図書館内に合体したらどうでしょうか。</p>	<p>資格あり）を室長として配属し、これまでの経験を生かした事業の推進にも取り組んでいます。</p> <p>①文化的施設では、子どもたちの居場所づくりも役割の1つに掲げていますので、天候を問わず子どもたちが集える場所になればと考えています。また、「おしゃべりしたい方」も「静かに過ごしたい方」も、どちらも共存できる空間づくりを目指しています。ご意見の内容につきましては、実施設計の段階において検討させていただきます。</p> <p>②大変貴重なご意見をありがとうございます。文化的施設では小さなお子様やお子様連れの保護者の方を歓迎します。しかしながら、「子育て支援センター※1」としての機能を文化的施設内に設置することは、次の理由により難しいのではないかと考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援センターとして必要となる職員の事務所等の確保 ・子育て支援センターとして必要となる設備・備品等設置場所及び保管場所の確保 など <p>活動の場としての一時的な活用など、可能性自体を否定するものではありませんが、「子育て支援センター」として常設的に設置するとなれば、町として責任のある運営を行う必要がありますので、この点につきましてはご理解いただければと思います。また、文化的施設では当該施設だけであらゆる課題を解決するのではなく、町内にある既存施設（機能）との連携により目的を達成していきたいと考えています。このため、文化的施設は「情報」を基盤に必要な人材や施設（機能）などを結ぶ「ハブ（結節点）」を目指しており、ご提出いただきましたご意見の内容につきましては、実施設計の段階において検討させていただきます。</p> <p>なお、現在「子育て支援センター」では、センター内における「一時預かり保育」だけでなく、「子育て相談」や「子育て講演会」、「保健師の新生児訪問への同行」なども行っています。ご意見の内容につきましては、「子育て支援センター」の所管部署とも情報共有のうえ、より一層のサービスの充実に向けて取り組んでいきます。</p> <p>※1…「子育て支援センター」とは、市町村等が実施主体となり、安心し</p>

受付No.	意見（原文のとおり）	意見に対する町の考え方
	<p>③大人向けの設備としては、橿原の図書館のように奥まったスペースでソファでくつろいで本を読む場所があると嬉しいです。</p> <p>④自分では買わない図鑑や写真集が充実しているとワクワクします。</p> <p>⑤芝生スペースや2階の階段前のホールで 50 人くらいのミニコンサートができるといいなと思います。そのためには今の位置にリファレンスカウンターがあると邪魔です。</p> <p>⑥図書館なので蔵書の充実はもちろん、本のアドバイスをしてくれる司書さんの常駐は必須ですね。</p> <p>⑦ただ静かに本を読む場所も必要ですが、多目的で遊びのある空間が共存した施設の方が利用したいなと思います。期待しています。</p>	<p>て子育てができる環境作りや、地域の実情に応じた子育て支援サービスの提供を行うため、地域の子育て支援情報の収集・提供に努め、子育て全般に関する専門的な支援を行う拠点として機能するとともに、既存のネットワークや子育て支援活動を行う団体等と連携しながら、地域に出向いた地域支援活動を実施するもの。</p> <p>③文化的施設では、色々な方が思い思いに過ごすことができる空間づくりを目指しています。ご意見の内容につきましては、実施設計及び什器・備品類の購入において検討させていただきます。</p> <p>④様々な種類の本や雑誌を提供することも、図書館の重要な役割となります。所蔵する本や雑誌につきましては、今後策定する収集方針において検討させていただきます。</p> <p>⑤ご意見にあるようなミニコンサートの会場としての活用も考えています。なお、1階のアートギャラリー前の扉は開放することができ、アートギャラリー・交流スペース・中庭を一体的な空間として活用することも可能となっています。ご意見の内容につきましては、実施設計において検討させていただきます。</p> <p>⑥ご意見のとおり、文化的施設の運営において専門職員（司書・学芸員）の配置は重要であると考えています。なお、現町立図書館におきましても、司書の資格を有する職員を配置していますが、増員等も含めできる限り早い段階での専門職員（司書・学芸員）の配置について、検討させていただきます。 ※「受付No.1」の回答もご参照ください。</p> <p>⑦文化的施設では、色々な方が思い思いに過ごすことができる空間づくりを目指しています。ご意見の内容につきましては、サービス計画や実施設計において検討させていただきます。</p>
3	<p>①芝生のスペースにパラソルやテーブル、イスをおいて欲しい。キレイな花や木や丘も置いて欲しい。コロナによって外遊びが増えたので、気軽にピクニックやシャボン玉をとばせるキレイな空間があったら嬉しい。それと子どもは丘で遊べるから。</p>	<p>①文化的施設では、色々な方が思い思いに過ごすことができる空間づくりを目指しています。ご意見の内容につきましては、実施設計及び什器・備品類の購入において検討させていただきます。</p>

受付No.	意見（原文のとおり）	意見に対する町の考え方
	<p>②最近のいろんなジャンルの本や雑誌をデジタルでも良いから置いて欲しい。今の四万十町の本屋に取りそろえている本の種類が少ないし、図書館でも雑誌にいたっては若者向けのトレンドな物が全然ないから。デジタルでも良いから置いて欲しい。</p>	<p>②様々な種類の本や雑誌を提供することも、図書館の重要な役割となります。ご意見の内容につきましては、電子書籍も含め収集方針において検討させていただきます。</p>
4	<p>①本を読む場所にクッションや背の低いソファがほしい。イスにすわって、机で本を読むよりリラックスできるし、体勢を崩して本を読みたいから。そして、長時間すわるのがきつい人もソファだといたくないと思うから。</p>	<p>①文化的施設では、色々な方が思い思いに過ごすことができる空間づくりを目指しています。ご意見の内容につきましては、実施設計及び什器・備品類の購入において検討させていただきます。</p>
5	<p>①施設開館の際には職員の採用の予定はどのようにお考えでしょうか？私は大学を卒業し7年目を迎えておりますが、学芸員と図書館司書の資格を卒業時に取得しています。このような分野の資格はたとえ持っていても直結する仕事は少なく、これまで特に日の目を見ることなく飾りのような状況になっています。こうした思いの人は他にもいるかと思えます。今後の採用基準や採用試験の有無等ありましたら具体的な業務内容や給与形態等、公開していただきたいと存じます。</p>	<p>①専門職員（司書・学芸員）の採用基準・採用人数など必要な人員につきましては、サービス計画において検討させていただきます。また、文化的施設の運営において専門職員（司書・学芸員）の配置は重要であると考えており、できる限り早い段階での専門職員の配置を目指します。なお、実際の募集にあたっては、町の広報紙やホームページにおいてお知らせいたします。</p>
6	<p>①全体のコンセプト施設内容はとても素晴らしく今から建設が待ち遠しいです。</p> <p>②ただし施設内および周辺駐車場計画50台は駐車場不足が懸念されます。ユニバーサルなコミュニティー施設を考えるなら避けては通れません。小さな子どもづれ障害者、年配者は車がとめれない場合、不便はやはり足が遠のくと思います。イベントをするなら駐車できない車両があふれることが容易に想像できるので家屋進入路や店舗の駐車場に影響があるのではと不安になります。</p> <p>③エントランスは壁を無くした方が施設に入りやすく空調費用削減やイベント使用など自由度が高まると思います。ぜひ検討してください。</p>	<p>①ご期待に添えるよう努めてまいります。</p> <p>②ご意見のとおり、文化的施設の駐車場だけでイベント時の駐車台数を確保することは困難であると思われます。駐車場の確保につきましては、この建設予定地に限らず懸案事項となっていました。例えば、施設の1階部分を駐車場にするといった方法なども考えられますが、建設や維持管理に要する費用を考慮した結果、周辺にある町有地などを有効活用する方向で考えています。しかしながら、平常時の運営や施設周辺の町民の皆様の生活に支障をきたすわけにはいけませんので、ご意見の内容につきましては、実施設計の段階におきまして、周辺環境の整備等も含め検討させていただきます。</p> <p>③ご意見のとおり、利便性の向上やコストの削減につきましては、重要な検討事項となります。ご意見の内容につきましては、実施設計において検討させていただきます。</p>
7	<p>①今回、改めて構想・計画・設計、今までの取組みや経緯、現在の説明資料や広報活動を読みました。なぜ今新しく文化的施設が必要なのか？必要だとして今後、四万十町としてどのように文化的施設を推進して活用していきたいのか。活用の先、未来へどう繋ぐのか。大きなビジョンも具体的な取り組むべきアクションもおおむね表されていて、広報について</p>	<p>①ご期待に添えるよう努めてまいります。</p>

受付No.	意見（原文のとおり）	意見に対する町の考え方
	<p>も、いま出来得る限りの活動がされていると感じます。今後のサービス計画についても大いに期待が膨らむところです。</p> <p>②この構想や計画に魂が入り、実際に実行されるためには町民の側でも施設の運営を行政任せにせず主体的に関わっていく心構えが必要でまたそういう町民の関わりを行政側でも積極的に歓迎する姿勢が必要と思います。四万十町ならではの課題に、寄り添っていける体制が官民協働で整うことを望みます。そのためには職員だけ、町民だけが知っているのではなく（世代間で分断されていることも多いですが）全員で情報を共有していける仕組みや仕掛けがあるといいですね。例えば定期的に職員・町民自由参加でオンライン込みの勉強会、説明資料にもあった「この施設を見て！」リンク集などを提示するだけ、一人で観るだけでは勿体なくて「一緒に」観るイベントや会があっというと思います。イタリアの某図書館の窓口にあるように施設職員だけが、常時、対応するのではなくNPO法人等が課題別、業種別に対応する枠があるなど。そういった企画を一緒にする際にも必要なのが基本計画にもあるイコールパートナーとしたサポーターとの協働で今現在も、これからも、このサポーターの育成や醸成については重要課題だと考えます。現在四万十町にある、関連の委員会、評議会、各読み聞かせ団体の方々とも今後はより活発な意見交換があるといいですね。</p> <p>③ランニングコストでは人件費の問題が悩ましいかとは思いますが、そもそもその正規雇用、研修費等については削減する対象にはならないと感じていて、とはいえ「中の人」だけの充実、スキルアップだけでは町民との協働、先にある施設の活発な利用、未来には繋がりにくく…行政内部での連携、ポストを越えた繋がりについて先行事例から学び、活かしていくことは勿論のこと。やはり前述のサポーターも一体となって官民が意識して、施設の運営に取り組むべきと考えます。</p> <p>④今からでも出来る仕掛けとして、先日あった意見公募を実際書いてみよう！という中高生向けのWSは素晴らしいと思いました。参加できなくて残念でした。定期的にあると嬉しいです。</p>	<p>②ご意見のとおり、町民のニーズの多様化に伴い行政の担うべき役割が複雑化する中において、行政のみでは解決できない課題が出てきています。特に本町のような小さな自治体では、貴重な資源（人材・財源・モノ）を有効活用する観点からも、官民に限らず連携することが重要であると考えます。そのためには、「まちづくり基本条例」にもありますとおり、お互いに情報を共有することが第一歩であると考えています。ご意見にあります「一緒に」学ぶ勉強会などは、情報共有しやすい環境づくりで生かせるのではないかと考えます。また、文化的施設をより良い施設に育てるためには町民の皆様のご意見が欠かせません。ご意見の内容につきましては、サービス計画などにおいて検討させていただきます。</p> <p>③ご意見のとおり、職員の資質向上を図ることはもちろんのこと、文化的施設をより良い施設に育てるためには町民の皆様の参加が必要不可欠となります。ご意見の内容につきましては、サービス計画などにおいて検討させていただきます。</p> <p>④ワークショップにご注目いただきありがとうございます。このワークショップは、文化的施設の意見公募を題材に中高生も町の施策に関われることをしてもらいたいとの想いで開催したものです。文化的施設開設に向けて、また開設後も町との関わりや人の交流を促すようなワークショップを色々と企画していきます。</p>

受付No.	意見（原文のとおり）	意見に対する町の考え方
	<p>⑤現在ある「図書館」「美術館」側からも、課をまたいで連携して積極的に働きかけられる面があれば、そのようにできるといいですね。（現在でもされていると思いますが蔵書検索が主で活動があまり記載されておらず勿体なく感じます。HPの充実を望みます）</p> <p>⑥歴史・郷土資料については、展示や保管のみではなくソレが未来に活かされている事例も一緒にあるといいと思います。四万十川を中心として自然をブランドとして打ち出している四万十町としては、施設内や取り組みにその存在感も強くほしい。</p> <p>⑦「知る権利」、生涯学習が根幹であることも強く意識したい。「図書館の自由に関する宣言」にあるように私たちには「知る権利」がありますが、「知って」その先にどういう世界にしたいのか、そういうことは行政任せで出来ることではなく個人1人1人で考えないといけないところです。考える力の助けの一つとなるのが、こういった「文化的施設」になるのだと思います。</p> <p>⑧課題は山積していて、終わることのない創意工夫が必要とされます。コロナ変化してはいけない理念も、とはいえ時代に合った変化もそれぞれ常に求められることでしょう。行政側、施設側だけで出来ることは限られています。世界では「図書館が無い」ことで、大変苦勞された経緯をもつ自治体、今現在も無いことで苦勞されている地域もある中、四万十町では町が積極的に推進しているように強く感じ頼もしく思います。大きな規模であり、未来への負担になるのではと心配・懸念される声も聞かれ、それはまた当然のことと思います。ただ、この機会を好意的にとらえ、積極的に参画して活用していくことで真に生きている「文化的施設」にしていくということも、また可能です。未来のため、また今すぐにも必要としている人も地域もあるなか今を逃し、先送りにしてしまうことが得策とも思えません。速やかに健やかに「文化的施設」がスケジュール通り完成し基幹的役割をもって、四万十町全体にそのサービスが波及することをイチ町民として望みます。</p>	<p>⑤図書館はあらゆる時代や文化の「知」の集積場所です。役場内でも各課の仕事にこの「知」を結びつけ、また文化的施設を使った情報発信につなげていきたいと思います。図書館・美術館を含む文化的施設の情報発信について引き続き検討していきます。</p> <p>⑥文化的施設では歴史・郷土資料の保管も行いますが、「活用」することを強く意識しています。ご意見のとおり、四万十川をはじめとする地域の歴史や文化を醸し出していきたいと考えています。ご意見の内容につきましては、サービス計画や実施設計において検討させていただきます。</p> <p>⑦ご意見のとおり、文化的施設は町民の皆様の知る権利・生涯の学びを支える施設です。情報や人との出会いを経て町民一人一人のよりよい判断に寄り添っていけるよう努めていきます。</p> <p>⑧文化的施設は2024（令和6）年度中の開館を目指しています。策定中のサービス計画は文化的施設の開館前から文化的施設開館後の5年間計画です。「まちの文化が流れ、ひとにひらかれ、人が集まる四万十駄場」（文化的施設のミッション（未来予想図））の実現を目指していきます。</p>
8	<p>①収蔵している美術作品は保存状況の点検を行ったうえで適切に保管し、展示・活用を行います。とありますが、どのように行うのか具体的に教えてください。保存状況の確認・管理は誰が行うのか？展示はどのように行うつもりか？（期間、回数、ジャンルなど）</p>	<p>①文化的施設には温度や湿度などが管理できる収蔵庫を導入いたします。また、新たな収蔵庫への美術品等の引っ越しにあたっては、カビや害虫等の点検も必要となってきます。点検につきましては、専門家の指導をおおぎ実施する予定としています。これに関しては、もし可能であれば</p>

受付No.	意見（原文のとおり）	意見に対する町の考え方
	<p>②芸術作品は、実際に近くで見ることにより感動するものです。貴重な作品をたくさん所蔵しているので有効に展示してほしいです。</p>	<p>町民の皆様の協力を得て進めていきたいと考えています。展示の期間・回数等につきましては、サービス計画や年間の事業計画の中で検討いたします。</p> <p>②ご意見のとおり、実物を近くで見ることで生まれる感動もあると思います。文化的施設では、美術作品等を「活用」することも重要であると考えています。そこで、できる限り多くの方に作品を身近に感じていただくため、町内の公共施設等でも展示を行う「まちじゅう美術館（仮称）」なども検討しています。具体的な内容等につきましては、サービス計画や年間の事業計画の中で検討させていただきます。</p>
9	<p>①いろいろの分野の個展、グループ展の出来るコーナーの設計もされているとは思いますが、四万十町のこれからの文化発展と保存、継続のため必要な事だと思えます。</p>	<p>①文化的施設では、展示もできるスペースとして「アートギャラリー」の設置を予定しています。また、文化的施設では複合型の施設であることの利点を生かし、「アートギャラリー」にとどまらず、施設内のあらゆる空間において展示を行う予定です。また、文化的施設以外で行われる個展やグループ展の情報共有にも努めます。なお、ご意見の内容につきましては、ご期待に添えることができるよう実施設計やサービス計画の中において更に検討させていただきます。</p>
10	<p>①【必須部分と選択部分の総事業費の差について】事業の必要性や規模・機能については、町民が最も関心を示している点だと思えます。意見公募手続き資料では、必須部分である環境改善の部分と、選択部分である機能拡充・相乗効果部分で整理された考え方が示されていました。この考え方を踏まえた場合、現状の試算額である総事業費約16億円のうち、必須部分のみの整備の場合と、機能拡充した場合とで、どの程度総事業費に差がでるのか教えてください。なぜなら、多大な予算を伴う大型事業だとの認識はあるものの、必要最低限の機能をもたせた公共施設の規模（必須部分）の金額を想定しているものか分からないからです。「身の丈にあった施設」とよく耳にするものの、正直どの程度の規模感がこの町の身の丈にあっているのかもわかりません。この双方のギャップをいかに縮めることができるかが大事なような気がしていて、その点を考える材料として教えていただきたいです。</p> <p>②【ニーズを踏まえた選択と集中の再検討】基本計画によると文化的施設は「あれか、これか」といった優先順位にとられず、「あれも、これも」といった5つの機能を有機的に掛け合わせることで実現していくと示さ</p>	<p>①まず施設（建物）につきましては、全体が必須部分であると考えています。施設の機能としては「図書館」「美術館」「展示」「コミュニティ」の4つがありますが、施設の設備としては「図書館」「美術館」がほとんどを占めています。基本設計では、「交流コーナー」などの設置も予定していますが、決して交流専用の空間ではなく、実際には書架も配置し「図書館」の一部としても活用する予定です。このため、町といたしましても「身の丈にあった施設」というものが一体どのようなものなのか判断（基準）が難しいところではありますが、他市町村の事例と比較しても、「図書館」「美術館」として整備をする以上、同程度の面積や費用は必要になるのではないかと考えています。なお、ソフト面（取組内容）に要する費用につきましては、意見公募用の説明資料 P25 に記載のとおりです。ただし、コストの削減については重要な検討事項となりますので、引き続き実施設計やサービス計画の中においても削減に努めていきます。</p> <p>②「基本計画」中の「あれも、これも」という言葉は、文化的施設の姿勢を表したものとなります。実際には、「予算」や「人員配置」のこともあり、当然実現が難しいことも多々あるとは思いますが、最初からできること</p>

受付No.	意見（原文のとおり）	意見に対する町の考え方
	<p>れています。しかし「あれも、これも」の拡充部分が貪欲すぎるがゆえに膨大な総事業費、そして町民の感覚とのギャップを生んでいるような気がします。すでに基本計画の変更が出来ないことは承知の上ですが、サービス計画の策定における優先順位付け、4つの機能の選択と集中、ニーズに即したサービスの検討を行う必要があると思います。このように上記の点について検討する意思があるのか教えてください。</p> <p>③【図書館機能について】図書館機能の基本は、町民の様々なニーズに応じて適切な資料や、情報を提供することだと思います。その様々なニーズというのは、図書館機能を利用する人、しない人に関わらず図書館機能に対して何を求めているのかを的確に把握することであり、それらを提供することにより、全ての人に利便性をもたらす運営を目指すことが責務だと思います。この前提を踏まえ以下4点に基づいた規模縮小の案を提示したいと思います。</p> <p>(1) 図書館機能のニーズの見直し…サービス計画案の図書館機能については、地域を支える情報の拠点として図書資料の充実を進め、課題解決の支援を目指すことと示されています。図書館機能を拡充するほど図書資料を必要とするニーズはこの町にどの程度あると考えてでしょうか。個人的な意見にはなりますが、私は本は好きですが図書館で本を借りるというサービス利用はしません。なぜなら読みたい本は自分で購入したり、電子図書を利用するからです。また、課題解決したい場合はその分野の専門書を買うか、インターネットで有益な情報を探します。タブレット端末による電子図書の活用などデジタル情報社会が進展していく中で、課題解決のために図書資料を拡充するほどの必要性がどの程度あるとお考えでしょうか。図書館機能のニーズの見直しをすることで、拡充部分を削減し規模縮小が見込まれると考えると。</p>	<p>に制限を設けるのではなく、色々なことに挑戦していく姿勢が必要であると考えています。ご意見のとおり、限られた資源を有効的に活用することは大変重要なことでありますので、サービス計画や年間の事業計画の策定においては、「財政状況」や「町民のニーズ」なども踏まえ検討いたします。</p> <p>③ 次の③-(1)から回答 ※意見数には含めていません。</p> <p>(1)ご意見のとおり、図書館機能の基本は町民の様々なニーズに応え、適切な資料や情報を提供することです。公共図書館は、本を無料で借りる場所というイメージが強いですが、図書館が無料で本を貸し出ししていることの根幹は、すべての町民に本（情報）を通じて学ぶ機会を提供することです。図書館を利用するのは0歳児から高齢者まで、また図書館の利用や読書に障がいをお持ちの方や図書館から遠方にお住まいの方もいらっしゃいます。町民の皆様の置かれている環境がそれぞれであるなかで、自ら知りたい、学びたいと思ったときに、資料や情報にアクセスできることが重要となります。また、図書館は顕在化したニーズ（「この本が読みたい」など）とともに自分の周りのことについて、「もっと知ろうよ」と働きかける場、多様な意見に出会う場でもあります。さらに、地域の記憶装置として歴史、文化、伝統などを集め整理し、保存し、現在と将来の利用者が共有する地域の「知の連環」を担っています。現施設においても多くの町民の方が読書に親しみ、図書館を利用されており、文化的施設が検討されるきっかけは、こういった利用者の方々から図書館の充実を求める意見が出されたことによるものです。町民の学びを支え、町の将来を担う子どもたちが適切な資料や情報を得る場として、図書館の充実は必要不可欠であると考えています。また、オンラインデータベースの導入や高知県立図書館オーテピアのサービスを活用した電子図書の利用推進も検討しています。デジタル情報社会の進展に即し、新しい</p>

受付No.	意見（原文のとおり）	意見に対する町の考え方
	<p>(2) 町民ニーズの把握方法について…先ほど述べたように、町民ニーズの的確な把握と提供が図書館機能の果たすべき基本的かつ必要不可欠な役割だと思えます。サービス計画案では、四万十町の課題にあった図書館のセレクトや住民の課題把握というサービス内容が提示されていました。実際にはどのように町民ニーズを拾い、また図書館機能のサービス運営へと反映させていくお考えなのでしょうか。</p> <p>(3) 蔵書冊数について…サービス計画案では蔵書冊数を現在の45,743冊から8.2万冊に増やすと示されていました。蔵書冊数（量）より、蔵書の種類（質）について気になります。ビジネス支援や健康情報支援、高齢者向けサービス等の支援を行うと示されていましたが。これらの種類の蔵書を増やすというお考えなのでしょうか。また、今後サービス計画の検討の中で、町民が必要と思う蔵書の要望を聞く機会はあるのでしょうか。</p> <p>(4) STEAM教育について…これから先VUCAの時代と言われる、正解がない世の中を子どもたちが生きていくうえで、自分自身で問いを見つけ、解決する力を養う教育の必要性（重要性）は理解できます。文化的施設の広報特集第1号には、「子どもたちの未来に投資する施設」、「子どもたちの時代を生き抜く力を育成」とあります。しかし、このサービスは、誰が主となり提供されるサービスなのでしょうか。学校現場のような公教育と連携して行われるのでしょうか。言葉が一人歩きして</p>	<p>技術等も取り入れながら、最終的な図書館機能（蔵書内容・蔵書数等）については、サービス計画や実施設計、収集方針、蔵書計画の中で検討させていただき、町民の皆さんの学びをバックアップしていきたいと考えています。</p> <p>(2) 図書館では、職員が出版物や資料情報にアンテナをはり、窓口で町民の皆様との会話を通して、また地域の潜在的な課題を意識しながら図書館機能の充実に努めています。町では、これまで以上に町民の皆様と本や情報との出会いや学びの機会を支援するため、文化的施設の整備にあわせて専門職員の充実を予定しています。文化的施設からの情報発信や町民の皆様との意見交換は機会をとらえて積極的に行ってまいります。</p> <p>(3) 「意見公募手続」説明資料での説明の仕方が解りにくく、申し訳ありません。この8.2万冊につきましては、文化的施設の収容冊数であり、蔵書数を8.2万冊にするということではありません。町の図書館にどのような資料を収集していくか、具体的には図書館資料の収集方針と蔵書計画で示すこととなりますが、蔵書は町民一人一人にそれぞれの課題がありその人の「ものがたり」のなかで、その課題に寄り添って本や情報を提供していくのが専門職員（司書）の仕事です。蔵書数が少なく、傷んだ本や内容が古いものばかりになると、そもそも町民の皆様を呼び起こすことができません。ビジネス支援、健康支援、高齢者向けサービスに必要な蔵書を増やしていくことは考えられます。町立図書館大正分館も含め町全体の蔵書構成を検討し、役場内の関係各課や町民の皆様と連携しながら地域の「知」を支える図書館の蔵書を更新し、分野を超えて工夫して配架（書棚に並べて）することで、「知りたい」「学びたい」気持ちを喚起していきます。町民の皆様との意見交換は機会をとらえて積極的に行ってまいります。</p> <p>(4) 学習指導要領の改訂により小中学校及び高校においてプログラミング教育が導入されています。企画課文化的施設整備推進室（昨年度までは生涯学習課）におきましても、STEAM教育^{*1}の試行としてプログラミングキットを使った小・中学生向けのワークショップを開催いたしました。ただし、STEAM教育＝プログラミング教育ではありませんので、教育委員会などとも協力し、学校とはまた違った取り組みを実施したいと考えています。こうした取り組みを企画・実践する役割を文化的施設が</p>

受付No.	意見（原文のとおり）	意見に対する町の考え方
	<p>いるように思えてなりません。実施主体やサービスの提供方法など、すでに検討している案があれば教えてください。</p> <p>④【美術館機能について】 (1) 作品の収蔵スペースの不足について…基本構想の「四万十町立美術館利用の現状と課題」では、作品の収蔵スペースが十分でないため、適切な作品の管理と保存状態の整備が課題として示されていました。現時点での空間設計ではこれらの課題を十分クリアできるスペースの確保となっているのでしょうか。さらに、「その他の文化施設利用の現状と課題」の中で、ふるさと未来館や大道中学校などにも放置されている所蔵物（休校中の教室には民具は対象ではないですか？）の管理も含めた所蔵スペースとなっているのでしょうか。これらの課題は、改善すべき必須部分であると考えます。よって、拡充部分を縮小しこの課題の改善が優先されると考えます。</p> <p>⑤【コミュニティ機能について】様々な世代の居場所、交流の場所として活用する場の提供について文化的施設の広報特集第2号には、「新しい文化的施設は読書好きの人だけではなく、誰かに聞いたり、誰かに教えたりできる場所を目指す」とあり、繋がる環境づくりの提供を検討されているのだと推測します。しかし、様々なニーズに適應できる空間設計なのでしょうか。利用したくなる文化的施設について、私を含め同世代の意見を聞いてみました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人で読書、または作業ができるパーソナルな空間が欲しい ・Wi-Fiだけではなくコンセントの整備もしてほしい ・蔵書スペースよりもフリーに使える部屋がほしい ・現状の図書館利用者数から大幅に増加することがイメージできない。蔵書スペースを多くとるよりは、小部屋や学習室など多目的に使える部屋がほしい（読み聞かせスペースなど） 	<p>担うことができると考えています。また、これらの取り組みにつきましては文化的施設が実施主体となりますが、実践にあたっては必要に応じて委託なども検討しています。（委託に必要な経費もランニングコストの見込みに含めています。）</p> <p>※I…STEAM教育（スティーム教育）とは、子どもたちが数学、科学、芸術などの基礎を身につけ、技術や工学などを応用して問題解決を図る力を総合的に学習する教育。</p> <p>④美術館機能について「基本計画」において、収集方針の見直しを行っていくこととしています。また、文化的施設の収蔵庫で保管できる美術品の数には限界がありますので、町内の遊休施設での保存も視野に入れる必要があります。文化的施設では鑑賞とともにプロジェクト型のアート体験も計画していき、文化的施設内だけにとどめず、町内の他の施設で美術品を展示する「まちじゅう美術館（仮称）」も検討しています。民具等の資料については、「基本計画」で示されているように「既存施設、廃校施設を含めた施設の一層の活用により、広く文化財を所蔵できる環境を整える」とし、文化的施設では一部の資料を展示しながら他の施設への回遊を促していきたいと考えています。なお、民具等の資料の収蔵や活用については、引き続き検討いたします。</p> <p>⑤町といたしましても、町民の皆様にも少しでも文化的施設ができて良かったと感じていただきたいと考えていますので、実施設計やサービス計画の作成にあたり、更に町民の皆様のニーズの把握に努めたいと考えています。一方、これまで当事業では、町民の皆様のご意見をお伺いするため、今回も含め既に3回の意見公募を実施しています。また、意見公募以外の方法として、広報紙やCATV行政放送・町HPなどの広報媒体のほか、町民の皆様とのワークショップや講演会、説明会や意見交換会なども数々開催してきています。今回の意見公募につきましても、まさに町民の皆様の色々なご意見やニーズをお伺いするために実施したものです。理想としては、町民の皆様一人一人にご意見を伺うことができれば最良ではありますが、現実的には不可能です。このため、町としては前述のような一定公式な方法により町民の皆様から広くご意見を伺う機会を設けてきたと考えていますが、これまで以上に情報の公開・共有や住民ニーズの把握に努めていきたいと考えています。なお、四万十町まち</p>

受付No.	意見（原文のとおり）	意見に対する町の考え方
	<p>・人が行き来する空間と、本を読む空間は別に設けてほしい</p> <p>・同じ施設内の空間で家族が別々なことができ、それぞれ終わったら一緒に帰るといった使い方ができたらいい</p> <p>・グループで集まって利用したい場合、現状では役場にしかスペースがない。多目的に使える部屋があったらいい</p> <p>結局、ニーズに即したサービス提供を考えられるかどうかで、施設の空間設計、サービス利用の可能性が変わってくるかと思えます。しかし、現状の模型を拝見した限りでは、あまりそのようなスペースは充実していないような印象を受けました。様々な世代が居場所や交流の場としての活用を想定するならば、どんな使い方をしたいのか、どんなニーズがあるのか、本当に様々な世代に聞いてほしいです。</p> <p>⑥1.事業の規模縮小 2.ニーズのヒアリング調査の実施 3.図書館機能縮小しコミュニティ機能の拡充 以上の3点が意見になります。具体的には図書館機能のニーズの見直し、コミュニティ機能における多目的かつ実用的なスペースの見直し、STEAM 教育を含めた新たなサービスの有用性を含め、規模縮小した文化的施設整備の検討をお願いしたいと思えます。そして、再検討するにあたっては、本当に町民が必要としているサービスを丁寧に拾うことが不可欠ではないでしょうか。これまで通りの図書館・美術館ユーザーである町民は、間違いなく今後も利用することでしょう。また人は新しいもの好きなので、このまま建設された文化的施設を利用する人は今までよりは増えることでしょう。ただ、現状の文化的施設は、「他所の人が作った感じ」がして「私たちの」、「四万十町の」という感覚を持ってません。町の一大事業であるならば完成までのプロセスの中で、多くの町民が関わることが出来る余白や機会を設けてほしいです。余談にはなってしまいますが、先日の人口推計に関する研修の所感を踏まえると、人口減少下における町施策を検討する必要があると強く感じました。一方で、膨大な事業費をかけて整備される文化的施設がこのまちの人口減少対策にどうつながるのか、疑問に感じたのが正直なところでした。なぜなら 20-30 代の若者にとっての定住施策（移住者による定住だけではなく、もともといる町民が定住し続けられる施策も必要だと思えます。）が重要であるというシミュレーション結果を踏まえると、文化的施設整備事業の拡充部分を、人口減少下で本当に必要とされる他の施策や事業に投資すべきではという印象を受けたからです。</p>	<p>づくり基本条例に基づく「情報公開・共有」「町民参画」「協働」によるまちづくりは、町民の皆様の権利でもあり義務（責任）でもあることから、この事業に限らず、その手法等について町民の皆様と共に検討していきたいと考えています。</p> <p>いただきましたご意見につきましては、実施設計やサービス計画の中で検討させていただきます。</p> <p>⑥まず「図書館機能のニーズの見直し」につきましては、「図書館」の役割について整理する必要があると考えています。「図書館」は、単なる本の貸し出しを行うサービス施設ではなく、公共の福祉を担う施設でもあります。「図書館」の根幹にあるのは、「図書館の自由に関する宣言（日本図書館協会）」にもあるように、「知る自由」を持つ町民の皆様に対し、資料と場所を提供することにあります。ご意見にあるように「本を読まないから図書館は必要ない」「本は購入するから図書館は必要ない」といったご意見も多数いただきます。そういった方々にとっては、それは事実であり否定されるものではありませんが、一方で経済的な理由や身体的な理由などにより情報を得ることができない方がいるのも現実であり、こうした観点から「図書館」が必要であるといったご意見もいただきます。町としては、こうした部分を大切にすべきと考えており、また、公でなければ担えない部分であるとも考えています。</p> <p>次に「コミュニティ機能における多目的かつ実用的なスペースの見直し」や「STEAM 教育を含めた新たなサービスの有用性」などにつきましては、実施設計やサービス計画の中において、その必要性や提供方法なども検討させていただきます。</p> <p>次に「町の一大事業であるならば完成までのプロセスの中で、多くの町民が関わることが出来る余白や機会を設けてほしい」といったご意見につきましては、⑤の回答をご参照ください。</p> <p>次に、維持補修費も含めランニングコストにつきましては、引き続き少しでも圧縮できるよう検討させていただきます。あわせて、施設（建物）</p>

受付No.	意見（原文のとおり）	意見に対する町の考え方
	<p>これまで繰り返し耳にした、「文化的施設を整備することで、こどもの未来への投資になる」という言葉は、正直に申し上げますと、これからこの町で子ども産む、育てようとする世代のわたしにとっても、またこれから町を担っていく、生活していく同世代にとっても響くものではありません。それ以上に、改善してもらいたい不安要素のほうが大きく、それらが置き去りにされている気がするからです。同世代の保育士からは、「保育所の建物の老朽化がひどい。大雨の時は廊下が滝のように雨漏りもする。子どものためと言いながら、本当に『子ども』を中心に考えているのか。」という懸念、日々の保育環境の整備がままならない中で、新しい施設を建てることへの疑問を拭い切れずにいます。文化的施設広報特集の第2号に記載されている文化的施設のコンセプトにも、「安心して子どもを生み育てることができる取り組み」とありますが、それまでの過程を省略しすぎているように思えて「投資」の意味が薄っぺらいものになっているように感じます。年間約7000万円のランニングコストがかかる試算ですが、30年後施設の老朽化に伴う修繕が必要になった場合その莫大な経費までも、未来の子どもたちに押し付けるのかと、「投資」による期待より「負担」という危惧が大いにあります。もちろん図書館・美術館（の機能を持たせた文化的施設）というのは、必要最低限の公共サービス、当たり前存在する欠かせない機能だという認識に変わりはありません。しかし、重要な施設だからこそ町の現状から飛躍があるという懸念が残る以上、本当に町民が必要だと思うサービスを提供できるよう、ニーズの拾い直しが必要だと思います。また将来を見据えたサービス提供であるならば、よりこの町や町民が有益だと感じられる具体的かつ実用的なサービス内容の提示が必要だと思います。</p>	<p>の整備に要する経費については、①の回答をご参照ください。次に「安心して子どもを生み育てることができる取り組み」につきましては、文化的施設のみで担えるものとは考えていません。ただ、町全体の取り組みを見たときに、文化的施設が担おうとしている役割は、町として必要であると考えています。ただし、ご意見にもありますとおり、子どもたちの将来における負担につきましては、判断を任された我々の責任として十分に検討する必要があると考えています。なお、サービスの拡充部分の必要性等につきましては、実施設計やサービス計画の中で検討させていただきます。</p>
11	<p>①図書で知識を得たり、アートで感性を磨いたり、人とコミュニケーションを気軽に取れる場所は、自分の生活にはなくてはならないもので、この地域に来て、それらの施設が散り散りにあることが少々不便に感じていたので、一つの場所として、集約されることに大いに期待しています。</p> <p>②とはいえ、私は十和在住なので、窪川まで行くには少々気合が必要です。また、ここらで見かける高齢者の方々は、一同に会する場所がなく、なかなか気軽に行ける場所がありません。夏は暑く、冬は寒い中、外にいるわけにもいかず、誰かとコミュニケーション取れる環境がなかなかないのが十和の課題だと感じています。また、子どもたちの遊び場も川や森だけでは十分とはいえません。文化的施設が同じ四十町できたとし</p>	<p>①ご期待に添えるよう引き続き努めていきます。</p> <p>②ご意見のとおり、「基本構想」や「基本計画」におきましても、広範な本町で文化的施設のサービスをどのように行き届かせるのかが大きな課題の一つとなっていました。「基本計画」のアクションプランでは「広域なまち全体にひらかれ、各地域をつなぐ」を掲げており、現在作成中の「サービス計画」におきまして、どのように実現するのか具体案を検討しているところです。特に図書館がない十和地域につきましては、基本計画</p>

受付No.	意見（原文のとおり）	意見に対する町の考え方
	<p>ても、窪川に自力で行くのが難しい人もいます。十和でも窪川の施設を縮小した形でいいので、同じように人とふれあい、図書で知識を得たり、感性を磨ける場所ができることを希望します。そして、自力で行くのは難しい方でも窪川の施設に気軽にいけるような環境が整うとなお嬉しいです。</p>	<p>でもお示ししているとおりに分館又は分室を設置する予定としており、令和6年度までに一定の方向性をお示しすることといたしました。なお、窪川地域までの移動手段につきましては、他の地域（地区）からの移動手段も含め、引き続き検討させていただきます。</p>
12	<p>①結論から申し上げますと、この施設の一角に「地域活動支援センター」を設けてみてはということです。文化的施設の整備目的と役割(1)に記載されているコミュニティ機能・コミュニティの場という言葉が見られますが、子どもや観光含めた商業的イメージが強く感じられました。</p> <p>『文化的施設は誰でも気軽に利用でき、様々な世代の方が自分の居場所として、また交流の場として活用し、町全体とつながり、人と町も生き生きと活動・活躍できるサイクルを生み出します』とありますが、『誰でも』という言葉に着目すれば、障がいのある人や高齢者（認知症のある人含む）も主体的に集える場としての準備ができているのでしょうか？バリアフリー設計であることは、今や当たり前の配慮です。しかし、バリアフリーの建物だからといって、地域の誰もが利用・訪問することに繋がるかという、決してそうではないと思います。子どもの教育の場を担う目的もあるならばこそ、共生型の文化施設であることが望ましいのではないのでしょうか。地域活動支援センター機能を持つメリットは、地域の中で行き場のない障がいのある人を含めて、誰でも通える場になるということ。次に、障がい者または、そこに集う人たちは、施設において労働力としての役割も担う可能性があります。認知症カフェも定期開催できます。また、障がい者アートや唄や劇などの表現活動は今やメジャーな社会参加方法であると同時に、就労形態でもあります。健常者が集う場に、当たり前障がいのある人や高齢者が集える仕組みを作ることこそが、共生型社会ではなんでしょうか？文化施設整備事業ということで、図書館・美術館の機能・拠点強化は前提だということは理解しています。ただ、『誰でも集える』という言葉を使うのであれば、もう少し視野を広げた見方をしていかなければ、いつもの人たちが使う（一部の人たちにとって都合の良い）施設になるのではと危惧します。社会的弱者にも優しい施設になることを期待しています。机上ではわからない、様々な困難課題を抱えた人たちにとっても、感謝される機能も持った文化的施設になっもらいたいものです。余談ではありますが、障がいのある人から見ると、例えば多目的トイレについても…折り畳みベッドが付いているのか、オストメイト対応か…など、ただ車椅子ユーザーが使えるトイレを</p>	<p>① 文化的施設につきましては、この施設の特性上「年齢」「性別」「障がいの有無」などに関係なく、できる限り多くの方にご利用いただけるよう、いわゆる「ユニバーサルデザイン※1」を強く意識しています。このため、様々な方々が集い、活動拠点として利用いただくことを歓迎します。また、ご意見にありますよう活動される共生型の施設となれるよう引き続き検討させていただきます。しかしながら、「地域活動支援センター※2」としての機能を文化的施設内に設置することは、次の理由により難しいのではないかと考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動支援センターとして必要となる職員の事務所等の確保 ・地域活動支援センターとして必要となる設備・備品類等の設置場所及び保管場所の確保 など <p>活動の場としての一時的な活用など、可能性自体を否定するものではありませんが、「地域活動支援センター」として常設的に設置するとなれば、町としても責任のある運営を行う必要がありますので、この点につきましてはご理解いただければと思います。また、文化的施設では当該施設だけであらゆる課題を解決するのではなく、町内にある既存施設（機能）との連携により目的を達成できればと考えています。このため、文化的施設は「情報」を基盤に必要な人材や施設（機能）などを結ぶ「ハブ（結節点）」を目指しており、ご提出いただきましたご意見の内容につきましては、実施設計の段階において検討させていただきます。なお、実施設計にあたっては、障がい者連盟の皆様などにもご協力を依頼しており、ご意見をいただきながら作業を進めることとしています。</p> <p>※1…「ユニバーサルデザイン」とは、年齢、性別、文化、身体状況など、人々が持つさまざまな個性や違いにかかわらず、誰もが利用しやすく、暮らしやすい社会となるよう、まちや建物、もの、しくみ、サービスなどを提供していこうとする考え方。</p> <p>※2…障害のある人に、創作的活動や生産活動の機会を提供したり、地</p>

受付No.	意見（原文のとおり）	意見に対する町の考え方
	<p>備えていても、それは多目的トイレにはなりません。福祉施設を作れを言っているではありません。繰り返しになりますが、多機能型の文化的施設を創るのであれば、もう少し地域の課題に目を向け、その解決の一役を担うものになって欲しいと思いましたので、意見を述べさせていただきました。</p>	<p>域社会との交流の促進などを図る支援機関。</p>
<p>13</p>	<p>①現在、文化的施設整備について、着々と進行されているようだが、この施設は、これまでこの地域に不足していた文化的資本を生み出し、地域住民にとって広い意味での生涯学習の拠点となる事を、強く願っている。</p> <p>②しかし、今時点で真に住民への生涯学習へのニーズを把握し、喚起できてないのではないかと危惧している。まず、交流ゾーンや学習支援などでIT・DXやSTEAM教育などITやハイテクな器具や環境を整備するのは、今後の未来に向けての取り組みとして必要であるとは感じるが、現在の図書館や美術館を取り巻く状況を考えると、違和感を覚える人達がいるだろうと推測できる。そこで、交流のツールとして、ハイテクなものだけでなく、将棋や囲碁、百人一首やカルタ、ボードゲーム、カードゲーム、健康麻雀などもあって良いのではないだろうか。</p> <p>③四万十町は広く山から台地、果ては海まであり、そこを四万十川が横断する地域である。そこでは、同じ日の気象条件であっても、地域によって異なる事はよくある事であり、川沿いの中心部から離れた地域では、山間の狭隘な平地に点々と世帯が散在した集落もある。その様な中で、ドローンを用いた資料の配送にはリアリティをあまり感じない。むしろ、現在存在している回覧板の様な地域間を循環するものや、身近な新聞配達業者への委託など既に流通網が存在しているものを活用するのが良いのではないだろうか。あるいは、将来的に周縁地域への物資運送にドローンが活用されるとしても、その物資は各個世帯に届けられるというよりも、地域の集会所や旧学校などの施設に集約して届けられる事が予測される。そうならば、むしろそれらの施設で資料の貸借が出来る基盤やネットワーク化を、今できる仕組みの中構築する事が先決であると考え</p> <p>④物事を新しく構築するとともに、これまであったものを記録するだけでなく、再生・再生成する資料や機会などを提供する事も必要ではないか。例えば、数年前に閉店してしまったが、当時縁遠かった洋食の味を身近</p>	<p>①ご意見のとおり、文化的施設は「生涯学習の拠点」、そして「まちづくりの拠点」となることを目指しています。ご期待に添えるよう努めていきます。</p> <p>②文化的施設では、将来を見据え「STEAM教育に基づく試行錯誤の場」など大きな役割を掲げていますが、まずは町民の皆様にお気軽に訪れていただき、思い思いに過ごしていただける場所になればと考えています。ご意見のとおり、町外の図書館では、交流スペースなどにおいて囲碁や将棋、ボードゲームなどを楽しんでいる事例も実際にあります。ご意見の内容につきましては、サービス計画の中において検討させていただきます。</p> <p>③ご意見のとおり、まず現下においては現実的な手段を用いたサービスの提供を検討させていただきます。また、ご意見の中にあります集会所や休（廃）校となった校舎など、拠点となる施設を活用した貸借につきましては、既に同様のサービスを検討しており、施設の完成を待たず先行して実施できるよう準備を進めています。基本計画では、「ドローン」の活用が強く前に出てしまっていますが、文化的施設としては、積極的に先進的な技術も取り入れ、サービスの向上に努めていきたいと考えています。ご意見の内容につきましては、サービス計画の中において検討させていただきます。</p> <p>④ご意見のとおり、文化的施設では物質的な継承だけではなく、その背景にある「想い」なども後世に伝えていくことが重要であると考えています。ご意見の内容につきましては、サービス計画の中において検討させ</p>

受付No.	意見（原文のとおり）	意見に対する町の考え方
	<p>に感じさせてくれた店、職場の裏側にあった廉価な食堂のラーメン等、高尚な歴史的なものだけでなく、地域に住む人々の身近な愛すべき存在の思い出を保存するのもアーカイブの重要な役割である。そして、その風景は窪川の街中だけでなく、海岸部、山村、それぞれにも同じように存在し、残すべき価値があるものである事は言うまでもない。</p> <p>⑤最後に、文化的施設整備についての説明をする機会は、待ちの姿勢ではなく、積極的に地域を訪れて行なって欲しい。その際も、これまでの様に文化的施設に関心のある人を集めて説明するだけでなく、集落毎の集会などにおいて、小時間でも、現在の状況も将来への視点を持った代表者等の存在が直接説明し、意見を聞く必要があると思う。これらの集会は主に年末の同じ時期に開催される事が多いので大変かと思うが、これまで図書館にも文化施設にも縁遠かった人々が自分事として考える機会にもなるし、思わぬニーズを掘り起こす可能性もあるので、是非とも検討してもらいたい。</p>	<p>ていただきます。</p> <p>⑤令和3年1月以降、各地域で説明会等を開催しましたが、新型コロナウイルスの影響もあり、なかなかご参加いただけない状況があります。こうしたことから、4月以降区長連絡会など各種団体様の会合等にお伺いし文化的施設の説明や意見交換などをさせていただいています。また、それらの会合や広報を通じて、ご要望があれば説明（意見交換）にもお伺いする旨をお伝えしています。ご意見の内容につきましては、大事にしていきたいと考えています。文化的施設の取り組みをより多くの皆様に知っていただき意見交換ができるよう今後も努めていきます。</p>
14	<p>①説明資料に計画されています施設活用法を見れば各種の展示物等が一つの建物の中で見たり、聞いたり活用が出来れば利用する物にとって、良い事に思います。（財源的に無理なく）。出来てよりの活用は自分達次第だと思います。過日、高知のオーテピアと梶原の図書館に行ってきましたが、本当にマバラな人でした。後日、「箱物ばかり作って」と云われないことを願ってます。</p> <p>②文書のデジタル化と云うことですが、古文書や道具物の保管は施設内には収めきれないと思いますので、保管場所は現状のままでと思います。管理の方にも目を向けてください。文化財の展示方法も色々ありますが、それはその後の事。</p>	<p>①文化的施設の建設は、この町に「誰でも自由に入出入りできる公共の場」を作ることです。文化的施設は、多くの町民の皆様にご利用いただくことはもちろんのこと、「参加」「活躍」「交流」の場としても日常のご活用いただくことも目指しています。「基本計画」でお示ししている「利用体験ストーリー」に描かれた日常を実現できるよう努めていきます。</p> <p>②ご意見のとおり、文化的施設だけで全ての歴史的資料等を保管することは、物理的に不可能であると考えています。このため、それぞれの歴史的資料等の「状態」「必要とする保管環境」「今後の活用方法」などを踏まえ、適切な保管場所を検討いたします。また、保管場所につきましては、文化的施設やご意見にあります現在の保管場所に加え、遊休施設の活用なども視野に入れ検討いたします。なお、最終的には「活用」することが重要となりますので、この点につきましても十分に検討いたします。</p>

受付No.	意見（原文のとおり）	意見に対する町の考え方
15	<p>①この施設が完成し、事業の目的がある程度達成されたならば、四万十町の良質の文化が向上し、町民の交流、さらには観光資源として大きな成果つながるものと考えます。そのためには、運用面において具体的で綿密な計画と定期的な評価改善がなされて行かなければなりません。それを誤ると無駄な経費の支出と財政負担が重くのしかかる無用の長物になることも考えられます。そこでこの事業を推進するにあたり、モニター制度の活用と広く町民からボランティアによる評議員を募ることを提案します。できれば幅広い年齢階層（中高生を含む）と居住域や職域、さらには町外の有識者を交えて評議員会を開き、運営者（職員）に提言していくシステムです。このような制度が有効に機能できれば、運営者側と利用者側の相互の理解と町民主体の施設としての機能が十分発揮できるものと考えられます。課題は山積していると察しますが、できるだけ全国の類似施設の情報を収集し、その利点を取り入れ、さらに四万十町の独自性（たとえば四万十川や遍路などをモチーフにしたもの）を生かせるような取り組みが重要です。この事業については町民の間に様々な懸念材料が指摘されていることですが、高齢者が生きがいをもてる場の提供と新しい世代がこの町に定住できるような意識づくりをしていくためにも、この文化的施設を町の財産としていかなければなりません。</p>	<p>①ご意見のとおり、文化的施設が所定の目的を達成できているのか評価し、改善を続けていくことはとても重要なことであると考えています。現在作成中の「サービス計画」におきましても、定量的・定性的な評価項目の設定を検討しています。また、岡山県真庭市立図書館が実施しています「図書館そだて会議」なども参考としながら、町民の皆様が参画できる運営会議の設置やモニター制度・評議員による評価手法の導入を検討していきます。なお、ご意見にありますとおり、“四万十町だからこそ”の魅力ある取り組みも意識し、文化的施設がこの町の財産となるよう努めていきます。</p>